

[ライフ・イノベーション分野]
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区（AAAシティおかやま）

[指定：平成25年2月、認定：平成25年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i)、ii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.8

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	介護保険給付費の抑制	97%	5
2	最先端介護機器等の活用による産業振興	119%	5
3	在宅高齢者の増加とQOLの向上	101%	5
4	生涯現役社会づくりの推進	240%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値

$(5 \times 4 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 4 = 5$

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.3

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

-

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.7

・数値上「十分な実績」を示しており、高いモデル性が示されている。その一方で、事業の持続可能性(人材確保・事業刷新)と制度化・全国展開の道筋が今後の重点課題とも考えられる。

・本特区は、来るべき超高齢社会に対応した新しい社会経済モデルの構築を目指し、介護予防、在宅介護支援など多角的な施策を展開しており、その取組は先進的であるとともに我が国の課題を的確にとらえた重要なものと評価できる。

・本特区は、介護給付費の抑制、QOL指標の改善、社会参加の促進、産業振興という多面的なアウトカムを同時に達成し、国内有数の成功モデルとしての地位を確立しているといえ、顕著に優れた取組といえる。

・全ての評価指標で目標達成かそれに近い成果を挙げている点を高く評価する。
ケアマネインセンティブ事業が今年度新たに実施され目標を達成した。介護の質を高める取組として今後も順調な推移を期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.7

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4.8+4.3+4.7 \times 2) \div 4 = 4.6$

4.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。